

【香川県三豊市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」(令和3年1月)において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本市では、「多様な他者と協働し、探究し続ける力の育成」を教育目標とし、学習の中で「対話」と「自問自答」を取り入れた授業づくりを行っている。「対話」では、根拠をもって自分の意見を述べること、「自問自答」では、自分の考えや友だちの考えから、新たな問い合わせを見付けることが必要である。そして、これらの実現に向けて、ICTの活用は重要な役割を担っている。1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「対話と自問自答のある学び」を通して、多様な他者と協働しながら粘り強く挑戦し続ける児童生徒の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備および校内通信ネットワークの整備を令和2年度中に完了した。

これに伴い、端末の利活用が可能となったため、令和3年度よりAIドリルを導入、令和4年度より授業支援システムを導入したことにより、利活用率は向上した。

ただし、学校間・教員間での利活用率の差が大きく、有用的な活用ができていない学校があるという課題が浮彫となっている。これについては、利活用が進まない原因を追究したうえで、課題解消のための研修会を実施したり、クラウドを活用し市内での先進的な実践事例を気軽に共有したりする場を設ける必要がある。

また、GIGA第1期においては、想定できない端末の故障に備えるべく、動産総合保険にも加入し、不意に発生する端末の破損や不具合に備え、ただちに対応できるものとしている。第2期においては、予備機を活用した運用により、これまでより更に迅速な対応ができるように備えていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用について

学校間・教員間での端末利活用状況の差を埋めるため、ICT活用に関する研修を計画的・定期的に実施するとともに、各校での実践事例を横展開できるプラットフォームを構築する。これにより、全ての教員へ効果的な利活用の情報を提供することができ、使ってみたいと思ってもらえる意識を高めていく。

また、1人1台端末の活用を教員の指示がある場面のみとせず、児童生徒自身に委ねることで、児童生徒それぞれに最適な学び方を提供することができ、真に「学ぶための道具」として端末を活用することができるような授業等への見直しを実施する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習者用デジタル教科書や AI ドリル等を活用し、児童生徒一人一人にあった方法で学習を進めるとともに、教育ダッシュボードを構築し可視化することで、それぞれにあった支援を実施していく。

また、学校教育活動全体を通して、児童生徒自身および教職員や他の児童生徒と主体的・協働的に端末を活用した学びを実施することができるよう支援していく。

(3) 学びの保障について

不登校児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒などについては、個々の状況やニーズに応じた端末の活用方法を検討し、個に応じた支援を充実させる。

【香川県三豊市観音寺市学校組合】 1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

中央教育審議会答申「令和の日本型学校教育の構築を目指して」(令和3年1月)において、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させること、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。

本市では、「多様な他者と協働し、探究し続ける力の育成」を教育目標とし、学習の中で「対話」と「自問自答」を取り入れた授業づくりを行っている。「対話」では、根拠をもって自分の意見を述べること、「自問自答」では、自分の考えや友だちの考えから、新たな問い合わせを見付けることが必要である。そして、これらの実現に向けて、ICTの活用は重要な役割を担っている。1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、「対話と自問自答のある学び」を通して、多様な他者と協働しながら粘り強く挑戦し続ける児童生徒の育成を目指す。

2. GIGA第1期の総括

1人1台端末の整備および校内通信ネットワークの整備を令和2年度中に完了した。

これに伴い、端末の利活用が可能となったため、令和3年度よりAIドリルを導入、令和4年度より授業支援システムを導入したことにより、利活用率は向上した。

ただし、学校間・教員間での利活用率の差が大きく、有用的な活用ができていない学校があるという課題が浮彫となっている。これについては、利活用が進まない原因を追究したうえで、課題解消のための研修会を実施したり、クラウドを活用し市内での先進的な実践事例を気軽に共有したりする場を設ける必要がある。

また、GIGA第1期においては、想定できない端末の故障に備えるべく、動産総合保険にも加入し、不意に発生する端末の破損や不具合に備え、ただちに対応できるものとしている。第2期においては、予備機を活用した運用により、これまでより更に迅速な対応ができるように備えていく。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用について

学校間・教員間での端末利活用状況の差を埋めるため、ICT活用に関する研修を計画的・定期的に実施するとともに、各校での実践事例を横展開できるプラットフォームを構築する。これにより、全ての教員へ効果的な利活用の情報を提供することができ、使ってみたいと思ってもらえる意識を高めていく。

また、1人1台端末の活用を教員の指示がある場面のみとせず、児童生徒自身に委ねることで、児童生徒それぞれに最適な学び方を提供することができ、真に「学ぶための道具」として端末を活用することができるような授業等への見直しを実施する。

(2) 個別最適・協働的な学びの充実について

学習者用デジタル教科書や AI ドリル等を活用し、児童生徒一人一人にあった方法で学習を進めるとともに、教育ダッシュボードを構築し可視化することで、それぞれにあった支援を実施していく。

また、学校教育活動全体を通して、児童生徒自身および教職員や他の児童生徒と主体的・協働的に端末を活用した学びを実施することができるよう支援していく。

(3) 学びの保障について

不登校児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒などについては、個々の状況やニーズに応じた端末の活用方法を検討し、個に応じた支援を充実させる。